

| | | |
|--------|--|---|
| 氏名: | 富永 循哉 |  |
| 所属先: | 東北大学病院放射線診断科 | |
| Email: | jrtomi@jf6.so-net.ne.jp | |
| 最終学位: | 医学博士 | |
| 略歴: | 1994 東北大学医学部卒業 1994-1999 東京都立駒込病院 (医員) 1999-2000 東北大学病院放射線診断科 (医員) 2000-2002 国立仙台病院 (医員) 2002-2004 東北大学病院放射線診断科 (医員) 2004-2010 東北労災病院 (医員) 2010-2011 東北大学病院放射線診断科 (助教) 2011-2012 埼玉医科大学国際医療センター (助教) 2012- 東北大学病院放射線診断科 (講師) | |
| 研究分野: | びまん性肺疾患 (間質性肺炎) の画像診断 | |

間質性肺疾患の気道拡張の臨床的意義、その評価と問題点、今後の課題

富永循哉¹, 水藤寛²

¹ 東北大学病院放射線診断科

² 東北大学材料科学高等研究所数学連携グループ

間質性肺疾患において、気道の拡張は、临床上、重要な画像所見である。特発性急性間質性肺炎、急性呼吸促迫症候群、慢性線維性間質性肺炎の急性増悪など、びまん性肺胞障害を背景病理とした急性間質性肺疾患、あるいは、特発性肺線維症、慢性過敏性肺炎、膠原病関連間質性肺炎などの慢性線維性間質性肺疾患に関する既存の研究でも、気道の拡張と生命予後との関連が報告されている。しかしながら、これらの研究では、気道の拡張の判定は、評価者の主観に委ねられている事、CT 水平断像で評価されるため、三次元的変化を考慮していない事、気道を目視で評価するため相当の労力を要し、更にその評価法が煩雑である事などの問題点がある。これらの問題点の解決のためには、thin-section CT による三次元データを利用したコンピュータ解析の導入が必要である。